

# 体育授業 と 学級集団意識の 関係

発表者 八谷 麻美  
指導教員 吉野 聡

キーワード：学級経営、社会性、体育科教育、一般生活

## 1. 緒言

学校教育において、学級経営は重要な役割を担っている。また今日では、いじめや不登校、学級崩壊など様々な学校問題が後を絶たない。社会に出る前に、社会に適応する能力や豊かな人間性を育む時期である教育段階において、そのようなことを学ぶためにも学級というものはとても大切な集団であるといえる。さらに、多くの場面で体育授業が良いと学級経営も良いといわれており、体育科教育の雑誌でも特集が組まれるほどに注目されている。日野ら(2000)<sup>1)</sup>は、体を動かしながら学習し社会性が育まれること、目標が達成されるなどの良い成果があれば学習意欲の向上が見込まれることなどから、他教科と比べても学級集団には大きな影響をもたらすと述べており、「人間関係」「学習意欲」「活動性」「雰囲気」の4因子からなる、学級集団意識調査票を作成し、体育授業評価<sup>2)</sup>との関係を検討している。その結果、体育授業の評価と学級集団意識との間には正の相関関係があることを明らかにしている。

体育授業の評価と学級集団意識の両者には強い相関関係が見られるということは明らかにされているが、体育授業での子どもの行動が、実際に日常生活での社会的行動に反映しているのかを実証した研究はまだ見受けられない。また、本当に体育授業で学んだ社会性が日常生活での社会性に直接的に反映されているのかということには疑問を抱く。中瀬古<sup>3)</sup>は、体育科教育における「社会性」育成の再検討を行っており、体育科教育において社会性を問題にすると、具体的に運動技術の習得と社会性の発達との関係が科学的に証明されおらず、体育授業の場における社会性の質・内容が不明確のままであると指摘している。今後は、授業内での社会的行動と一般生活での行動の関わりを、理論的・実践的に究明していかなければならないと述べている。このように、体育で学ばれる社会性を体育独自にとどまらず、一般生活にも反映させていく必要があるならば、まずは体育授業での子どもたちの行動と学級での行動の関係を明らかにする必要があると考えられる。

そこで本研究では、中学生を対象に質問紙調査を通じて、体育科教育における社会性と一般生活での社会性の関係を実証する第一段階として、体育授業での集団意識・体育授業の評価・学級での集団意識の3者にはどのような関係があるのかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

### 2-1 対象者

K県内の中学1~3年生男子159名、女子148名、計307名の12クラスを対象とした。

### 2-2 調査方法

日野ら<sup>1)</sup>の学級集団意識調査票と高橋ら<sup>2)</sup>の診断的・総括的授業評価を参考に3つの調査票を作成

し、データを収集した。

### 2-3 調査項目

#### a. フェイスシート

①学年②組③性別④部活動の4項目を設定した。

#### b. 学級集団意識調査票

先行研究を参考に、「学習意欲」「学習規律」「人間関係」「雰囲気」の4因子からなる、20項目を設定した。

#### c. 体育授業における集団意識調査票

学級集団意識調査票をもとに20項目を設定した。

#### d. 診断的・総括的授業評価

先行研究を参考に、「できる」「たのしむ」「まもる」「まなぶ」の4因子からなる、20項目を設定した。

aのフェイスシートを除く、b・c・d全ての質問項目に対して、4件法により回答を求めた。

### 2-4 分析方法

まず、学級集団意識調査票と体育授業における学習集団意識調査票に対し、集団意識を構成する要因について再検討するために主因子法・バリマックス回転を設定し、因子分析をおこなった。次に回答を得点化し、体育授業における学習集団意識・体育授業評価・学級集団意識それぞれのクラス別平均得点を算出した。最後に(i)体育授業における学習集団意識の総合得点と体育授業評価の総合得点(ii)体育授業における学習集団意識の総合得点と学級集団意識の総合得点(iii)学級集団意識の総合得点と体育授業評価の総合得点(iv)抽出した因子ごとのそれぞれに対してスピアマンの順位相関分析をおこなった。これらの統計処理は、SPSS15.0を用い、有意水準は5%未満とした。

## 3. 結果と考察

### 3-1 体育授業における学習集団意識と学級集団意識の構造

表1は、体育授業における学習集団意識の9項目を変数とした因子分析の結果である。先行研究であった「雰囲気」の観点からなる項目は、他の項目の結果によって生み出されるものであり総合項目と捉えられる。また、とても抽象的なもので具体性に欠けることから除外することとした。

第1因子は「体育授業は、できないことができるようになるので、楽しく感じる」「もっと運動したいと思うことがある」「クラスみんながたくさん運動しているのを見て、自分も運動しなくてはと思うことがある」の3項目において因子負荷量が高く、学級集団意識の学習意欲に対応する項目から構成されていたことから「運動意欲」と命名した。

第2因子は「先生が話しているときは、だまって最後まで聞くことができる」「体育授業中、遊んだりせずに運動に取り組むことができる」「体育授業の始めと終わりのあいさつをきちんとすることができる」の3項目において因子負荷量が高く、

学級集団意識の学習規律に対応する項目から構成されていたことから、そのまま「学習規律」と命名した。

第3因子は「体育授業中、自分勝手なことをする人が多いと思う」「けんかやめごとが多いと思う」「体育授業中、クラスのみんなどはよくまとまっていると思う」の3項目において因子負荷量が高く、学級集団の人間関係に対応する項目から構成されていたことから、これも同じく「人間関係」と命名した。

学級集団意識については、日野ら<sup>1)</sup>が作成した「学級集団意識調査票」と同様の因子分析の結果が見られ、体育授業における学習集団意識の因子と対応するものとなった。

表1 因子分析の結果

No.	質問項目	I	II	III
3	体育授業は、できないことができるようになるので、楽しく感じる	.927	.133	.150
1	もっと運動したいと思うことがある	.662	.091	.009
4	クラスのみんなどがたくさん運動しているのを見て、自分も運動しなくてはと思うことがある	.474	.117	.044
8	先生が話しているときは、だまって最後まで聞くことができる	.046	.754	.054
9	体育授業中、遊んだりせずに運動に取り組むことができる	.116	.595	.139
10	体育授業の始めと終わりのあいさつきちんとすることが出来る	.207	.576	.154
12	体育授業中、自分勝手なことをする人が多いと思う	-.060	.101	.857
11	私のクラスは、体育授業中にけんかやめごとが多いと思う	.024	.154	.493
13	体育授業中、クラスのみんなどはよくまとまっていると思う	.191	.042	.374

N=307 因子抽出法: 主因子法 回転法: ハリウタス法

### 3-2 体育授業における学習集団意識・体育授業評価・学級集団意識の実態

全クラスの体育授業評価の平均得点は、80満点中61.91点、体育授業における学習集団意識の平均得点は、36満点中28.95点、学級集団意識の平均得点は、36満点中27.09点であった。これらの平均得点を基準とし、クラス別の平均得点を見てみると、体育授業における学習集団意識の得点が平均水準以上のほとんどのクラスは、体育授業評価、学級集団意識の平均得点も水準を上回っている結果となった。

### 3-3 体育授業における学習集団意識・体育授業評価・学級集団意識の関係

まず、(i)の関係をみたところ、強程度( $r=.714$ )の相関がみられた。次に、(ii)及び、(iii)の関係をみたところ、それぞれ中程度(ii:  $r=.587$ , iii:  $r=.488$ )の相関がみられた。学級集団意識と体育授業評価に関しては、日野ら<sup>1)</sup>の研究結果とは多少異なるものとなった。このことから、やはり小学校での調査では、授業も学級経営も一括して担任教師が行う学級担任制であるため、担任の指導が大きく影響し、学級集団意識と体育授業評価の両者にはかなり強い相関がみられたのではないかと考えられる。

表2は、(iv)の相関分析を行った結果である。

表2 相関分析の結果

		体育の学習集団意識			体育の授業評価			学級集団意識		
		運動意欲	学習規律	人間関係	できる	たのしむ	まもる	まなぶ	学習意欲	学習規律
団学体 意習育 識集の	運動意欲	.256**	.118*	.672**	.628**	.278**	.604**	.387**	.196**	.068
	学習規律		.275**	.304**	.317**	.479**	.360**	.369**	.569**	.154**
	人間関係			.103	.261**	.283**	.204**	.186**	.197**	.526**
業育 評の 価授	できる				.684**	.284**	.649**	.288**	.247**	.095
	たのしむ					.367**	.676**	.420**	.325**	.196**
	まもる						.355**	.309**	.481**	.196**
団学 意級 識集	まなぶ							.372**	.320**	.111
	学習意欲								.390**	.047
	学習規律									.188**
	人間関係									

\*\*p<0.01, \*p<0.05

因子ごとの関係をみてみると、体育学習規律・学習規律・まもるの3つはどれも中程度の相関がみられた。体育での人間関係と学級での人間関係には中程度の相関がみられ、体育での人間関係と体育授業における学習集団意識、学級での人間関係と学級集団意識には強程度の相関がみられた。このことから、集団意識の高低は、人間関係が大きく関係していることがわかった。

## 4. まとめ

本研究では、体育授業における学習集団意識・体育授業評価・学級集団意識の3者間の関係を検討したところ、以下の3点が明らかになった。

1) 体育授業における学習集団意識の構造を明らかにしたところ、学級集団意識の構造と対応する「運動意欲」「学習規律」「人間関係」の3因子が抽出された。学級集団意識においても日野ら<sup>1)</sup>と同様の結果が得られ、「学習意欲」「学習規律」「人間関係」の3因子が抽出された。

2) 体育授業における学習集団意識・体育授業評価・学級集団意識の3者に対してクラス別平均得点の比較を行ったところ、体育授業における学習集団意識の平均得点がおおむね高いクラスは、体育授業評価と学級集団意識もおおむね高い結果となった。

3) 体育授業における学習集団意識・体育授業評価・学級集団意識の関係をみるため相関分析を行ったところ、3者の間にはすべて相関関係が見られた。しかし、小学校と中学校では多少異なる結果となった。

本研究においては以上のことが明らかになったが、今回の研究では中学校の生徒に対して調査を行い、3者の平均得点の関係の検討を行ったが、具体的に体育授業で身につけられるどのような行動や言動が一般生活に反映しているのかというところは明らかになっていない。今後は、より細かい項目に焦点づけて体育と学級についての関係をみていく必要があると考えられる。

## 5. 文献

- 1) 日野克博・高橋健夫・八代勉・吉野聡・藤井喜一(2000): 小学校における子どもの体育授業評価と学級集団意識との関係, 体育学研究 45: 599-610
- 2) 高田俊也・岡沢祥訓・高橋健夫(2000): 態度測定による体育授業評価の作成, Vol. 20, No. 1, pp. 31-40
- 3) 中瀬古哲(1984): 体育科教育における「社会性」育成の再検討, 日本体育学大会号(35) 789, 10-18